

あいかわ 森のようちえん 報告書



平成30年3月17日～18日
神奈川県立愛川ふれあいの村

3月17日（土）1日目

前日の雨が上がり、気持ちの良い天気の中、主催事業『あいかわ森のようちえん』を開催しました。18家族61名の方にご参加いただき、2日間、たんけんやクッキングを思いっきり楽しみました。はじめのつどいは大人も子どもと一緒にじゃんけん列車などをして遊び、緊張をほぐしていきます。



青空の下で美味しいお弁当を食べた後は、親子で春を探しに『たんけん』に出ます。女の子はお花を摘んだり、きれいな花びらを集めたり、男の子は大きな石や木の棒が大好きです。「こんなのがあったよ！」と小さなお花を見せてくれる子や「これクルミだ！」など、植物に詳しい子もいました。大人も子どもも自然いっぱいのフィールドに目を輝かせていました。大人はというと、落ち葉のトランポリンではねるなど童心にかえって遊びます。



いよいよ子どもたちだけのたんけんです。「いってきます！」で別れた後、大人は野外でカフェタイム、子どもたちはさらに森の奥に進みます。大人はコーヒーの焙煎を行いました。「豆はこの色でいいんですかね。」と家族間の交流も見られるようになっていきます。子どもたちは森の中で「なんか恐竜の時代にきたみたい。」と周りをぐるぐる見回しながら足を進めます。森を抜けると落ち葉のプール。「スタッフを埋めよう!」、「わたしも埋まりたい!」と落ち葉遊びで大盛り上がりでした。



子どもたちはロッジに戻り、森でのたんけんの様子や落ち葉のプールで遊んだことなどをお父さんお母さんに楽しそうに話します。子どもたちの笑顔を見て、お父さんお母さんも自然と笑みがこぼれます。



お風呂に入り、夕食を食べた後は『星空観察』。暗闇で周りが見えない分、耳や足の裏の感覚が冴えます。普段は聞き逃しそうな遠くの車の音が聞こえたという子もいました。この時期の夜空にはまだ冬の星座が見られます。子どもの中には星博士がいて「ベテルギウスだよ！」と可愛い解説者とともに楽しみました。子どもが寝たら大人はスタッフがとった写真の上映会を行います。注目は子どもだけのたんけんの写真です。なぜ落ち葉だらけで帰ってきたのか、お尻が泥んこなのか。大人たちは写真を見て納得した様子でした。

3月18日(日) 2日目

「おはよう！」と子どもは朝から元気いっぱい。朝はスタッフとともにシーツをたたみます。朝食を食べ、ロッジの掃除をしました。



2日目のメインプログラム『アウトドアクッキング』開始！メニューは“ごはんと煮込みハンバーグ、味噌汁”まずは調理係と火おこし係に分かれます。出汁をとるところから味噌汁を作りました。出がらしの昆布は和え物にして無駄なく食べました。野菜を切る顔は真剣そのもの、はじめてみた大きな火にびっくりした様子の子も。「僕も切りたい！」、「わたしも(火を)つけたい！」と“したい(チャレンジ)”がたくさん生まれます。



準備が整った班からいただきます。自分で作ったものはなんでも食べます。「おいしい！」、「昆布又ル又ル。」とお腹いっぱい食べました。後片付けまでがアウトドアクッキング。子どもも洗い物のお手伝いをし、イスやテーブルを運びます。力持ちのおかげで、あっという間に片づけは終わりました。片づけが終わったら大人はロッジでまったり、子どもは最後の『たんけん』へ。芝生の坂をごろごろしたり、駆けあがったりと元気に遊びました



この2日間で子どもも大人も自然の中でたくさん遊びました。遊具やゲーム、スマホが無い中でも遊ぶことが出来ることを体験してもらい、落ち葉を踏みしめる感触や土の匂い、風の音、太陽のあたたかさ、食事の味など五感をフルに使って楽しみました。参加された皆さまにはお家に帰ってから近く公園や野原、森などに出かけて、自然と関わってほしいと願っています。また、自然の中でたくさん遊んだ子どもたちの笑顔を思い出して頂けたら幸いです。文責：石川